



山家歌集

函		號
番 號	国 法	號
分 類	大 学	之 部
第 共	2	號
	2	冊

文  
冊  
上





山家和歌集上下

昭和五十三年十二月廿八日飯島書店  
估価二十円

村井順

山家和歌集よ

春

三三三三三三三三三三三

年々ねえまゝく〜  
山のけしきす〜  
ま〜  
あ〜  
と〜  
家〜

元日子日〜

み日〜

山〜

山〜

山〜

山〜

山〜

山〜

山〜



今も昔も何となく昔もいふも海に... 昔のあみよ...  
海邊の...  
りりるく...  
あ...  
ぬ...  
子日

あ...  
ぬ...  
子日

子日

あ...  
ぬ...  
子日  
わ...  
は...  
い...

香中 着茶

け...  
着茶

雨中 着茶

去日野八卒の内...  
着茶...  
老人の着茶...

寄 着茶 述懐

着茶...  
寄 着茶 述懐

鳥のこゝろをいせし海のかつら

うき世をて開しけし世はあはれなる世なり

雨申書しるし

書れしを新よりの世にあらんめしるし書れし

ぬ中書

書の本とめしと鳴わし竹枝をよみしるし

すみけの書はよき書れしとてせしるし

ゆきやうきと書きのきりしるし

書の本はあはれなる世にあらん

書の本とすしるしと書れしとてしるし

書の本とす

りしるしと書れしとて開しけし世はあはれなる世なり  
書きのきりしるしと書れしとてしるし  
書の本はあはれなる世にあらん  
書の本とすしるしと書れしとてしるし

梅

書きのきりしるしと書れしとてしるし

山

書きのきりしるしと書れしとてしるし  
書きのきりしるしと書れしとてしるし  
書きのきりしるしと書れしとてしるし  
書きのきりしるしと書れしとてしるし

梅のゆきと書れしとてしるし

山上

四

何れに梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

梅代

梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

梅代

梅の影をたもておんこころに梅の影をたもて  
梅代なるものこそ梅代のみよめる

あつ月ののりつらみは

まのてあぢらなりつらみは

山里乃柳一

あつ月ののりつらみは

柳乃みは

あつ月ののりつらみは

海中柳一

あつ月ののりつらみは

水鳥柳一

あつ月ののりつらみは

待花忌地

あつ月ののりつらみは

独山の也紙

あつ月ののりつらみは

花紙

あつ月ののりつらみは

あつ月ののりつらみは

あつ月ののりつらみは

あつ月ののりつらみは

あつ月ののりつらみは

あつ月ののりつらみは

あつ月ののりつらみは

あつ月ののりつらみは

あつ月ののりつらみは

建久元年  
一八七二年  
三月二十九日

一 野山橋のむと  
わくろくろく山橋あらんは  
むみれんうのつれな  
白川の橋はみても  
引る魚をむみれん  
むちして月かろの  
くろのめふむと  
ゆいあつてみぬ  
橋原四方の山も  
むよそむのいそ  
白川の春の橋の  
れくむの下と

件は橋のむと  
まはらむとあり  
山橋原はあら  
ゆいあつてみ  
のつれなうの  
白川の橋はみ  
引る魚をむみ  
むちして月か  
くろのめふむ  
ゆいあつてみ  
橋原四方の山  
むよそむのい  
白川の春の橋  
れくむの下と







Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a journal entry. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a small mark resembling a stylized 'L' or '7' at the top left. The text continues down the page with several lines of writing, ending with a small mark at the bottom right.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a small mark resembling a stylized 'L' or '7' at the top left. The text continues down the page with several lines of writing, ending with a small mark at the bottom right.

Handwritten characters, possibly a page number or a small note, located on the left margin of the page.



此の如くは、  
 神の御心は、  
 人の心とは、  
 異なるが、  
 人の心は、  
 神の御心、  
 を知る事は、  
 神の御心、  
 を知る事、  
 である。

草五

此の如くは、  
 神の御心は、  
 人の心とは、  
 異なるが、  
 人の心は、  
 神の御心、  
 を知る事は、  
 神の御心、  
 を知る事、  
 である。



長印也

室のつとむ月のさかぬを夜<sup>夜</sup>もくくす<sup>西</sup>す<sup>布</sup>おれ<sup>布</sup>の<sup>布</sup>...

休くまのわたりは... 無云ありわたり比部との初と念と開く

町子... 不為同子... 部は卯月のつみよわりの... 又書部...

コト十七... 何ぞ

ワの... 何ぞ

部は... 何ぞ

人... 何ぞ

部... 何ぞ

何ぞ... 何ぞ

部... 何ぞ

大井川... 何ぞ

郭んされらへん出ほりてぬまうりて人

時を待

つゝつゝ深き心つゝも哀れなるも  
時を待のつゝつゝも心つゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
郭もつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
毎のつゝつゝ郭もつゝつゝつゝつゝ  
時を待のつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
海中つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

郭んされらへん出ほりてぬまうりて人

又月の時を待のつゝつゝつゝつゝ  
時を待のつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

時を待のつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

郭

直にされらへん出ほりてぬまうりて人

五日

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ





真野舟橋  
津ノ國

八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も

深山水鶴

仙人の言よとてつらき水鶴ありけり  
題不知

接子

八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も  
八月の夜も心懸けはる木々の影も

八月の夜も心懸けはる木々の影も

行路甚るるわが

と舊ありりゆわがら原なをれすむいも陰は夜の境

とりすむわがわがねる魚形よとをわわをを歌守よ

題

夜の来は志れ小竹のうと色こそをわわの形わがを

夜の来は月かりとやありらん夜を中ぐりて月かき

海邊夏月

海のちり芳のあつと月河をのき波あそぶ歌の経

泉よゆひて月紙みり

ひとひあつる泉よとあつる月紙みり

むとわのよと涼にゆき波あつる清水にゆき波あつる

夏の月だ

夏のよとゆわなよあつととく月の来はとをわわ

山河のよとせうわをちり波あつる波をみりあつる

池上夏月

池上夏月とをわわ

蓮池

蓮池とをわわ

海中夏月

海中夏月とをわわ

涼同如秋

涼同如秋とをわわ

去風如秋とをわわ

又水竹の秋市わらわし〜

乃月乃の〜

山家待秋〜

山〜

六月後

汝後〜

秋

山〜

〜

山居の〜

秋〜

〜

秋〜

初秋の比ら〜

〜

七ヶ

〜

〜

〜

〜

蜘蛛の井〜

〜

〜

夕暮の霞をくぐりてはまはるるをたづねては

野徑秋風

末に秋風は地を走るは海ありてありては秋のよき

ものむむ時秋風はくわくわくして

いししとくわくわくして海のありてはくわくわくして

の路ものむ

あそびの袖はあそびの袖はあそびの袖はあそびの袖は

霧中ものむ

あそびの袖はあそびの袖はあそびの袖はあそびの袖は

終るものむとみしうとみしうとみしうとみしう

乱は嘆の人の蘇りてはあそびの袖はあそびの袖は

蘇りてはあそびの袖は

嘆そそとくわくわくしてはあそびの袖はあそびの袖は

蘇地の歌はあそびの袖はあそびの袖は

あそびの袖はあそびの袖はあそびの袖はあそびの袖は

あそびの袖はあそびの袖は

あそびの袖はあそびの袖はあそびの袖はあそびの袖は

あそびの袖はあそびの袖は

あそびの袖はあそびの袖はあそびの袖はあそびの袖は

あそびの袖はあそびの袖は

あそびの袖はあそびの袖はあそびの袖はあそびの袖は

古藤の萱

あそびの袖はあそびの袖はあそびの袖はあそびの袖は

女良の

なまじく〜袖にやほはる花の影をみれば  
とほほ〜色めくの〜の〜

草花露重

と物みれん空のすけはかり〜  
大に花の影をみれば〜  
お鳥を若し〜

お鳥を若し〜  
お鳥を若し〜  
水邊女房を〜

水邊女房を〜  
女房を水〜

よみ〜  
萩

萩の風を〜

隣の夕れ萩の風

隣の夕れ萩の風  
吹く〜  
何〜

た〜  
二二

何れも物にあらざるは 出づるは 秋の由り

此の家は ありのまゝ

ねまの ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ

大いなる ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ

此の ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ

まゝの ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ

何れも物にあらざるは 出づるは 秋の由り

秋の ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ ありのまゝ





うちつけに入来む秋のをほほむまで  
 月夜をしくある命のゆきな  
 二三ノウロ

月夜よ〜の〜  
 終業月夜のみさる

誰まるん月のま〜  
 八月十九日

あ〜の〜  
 天川に〜  
 うらり〜  
 あ〜

く〜の〜

月夜は〜  
 月夜〜

入〜の〜  
 詩〜  
 秋〜  
 月〜  
 今〜  
 月〜  
 月〜  
 月〜  
 月〜

いんかんしと神まはるるに  
 ありしつらまのなるこく  
 月をちびかうん<sup>ノ</sup>て<sup>ル</sup>  
 かへし<sup>ク</sup>ち<sup>コ</sup>ら<sup>ウ</sup>の<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 うそ<sup>ク</sup>り<sup>テ</sup>り<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 かし<sup>ク</sup>れ<sup>ク</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>

月のまへ<sup>テ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>  
 あり<sup>テ</sup>る<sup>コ</sup>の<sup>テ</sup>ら<sup>ウ</sup>

中へいびくうん<sup>ノ</sup>て<sup>ル</sup>  
 ニカキクニ



月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月照野もさくらもさくら

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影野も

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影野も

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影女鳥也

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影虫

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

深夜同登

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

田家月

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影舞

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影舞

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影舞

月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる月影のしほきくはるる

月影のしほきくはるる



くちの海を渡る舟のりつみ

のりつみ舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

船中 初馬

舟のりつみ舟のりつみ

朝は初馬

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

舟のりつみ舟のりつみ

山家務

まじりし務のしほまじりしつらむのむらさき  
と紙よりけし竹のあまのこころのむらさき

麻

まじりし麻のむらさきはけしつらむのむらさき  
麻のむらさきはけしつらむのむらさき  
麻のむらさきはけしつらむのむらさき  
山下の麻のむらさきはけしつらむのむらさき  
麻のむらさきはけしつらむのむらさき  
小倉の麻のむらさきはけしつらむのむらさき

まじりし麻のむらさきはけしつらむのむらさき

暁の麻

暁の麻のむらさきはけしつらむのむらさき  
麻のむらさきはけしつらむのむらさき

暁の麻のむらさきはけしつらむのむらさき

幽居の麻

幽居の麻のむらさきはけしつらむのむらさき

田舎の麻

小山田の麻のむらさきはけしつらむのむらさき  
人麻のむらさきはけしつらむのむらさき  
麻のむらさきはけしつらむのむらさき

獨岡持衣

ひりねのよきしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

彌里持衣

よき衣のひらふらふらぬくも新しあまらうきふらん

幸比しぬれん人の依るは作し申のし物備は

けふし衣のなみしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

ふり入神よき衣けふしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

虫のうきよみけり

なまぬくもむらうきふらぬのしけしよきふらぬくも新しあまらうきふらん

秋のしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

養ひぬれん人の依るは作し申のし物備は

秋のしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

虫のうきよみけり

のくもぬくもむらうきふらぬのしけしよきふらぬくも新しあまらうきふらん

秋のしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

あまのしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

秋のしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

よきふらぬくも新しあまらうきふらん

ひらぬのしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

養ひぬれん人の依るは作し申のし物備は

虫のうきよみけり

秋のしりふらふらぬくも新しあまらうきふらん

虫のうきよみけり

獨聞蟲



ひもねたなふねて養ひくき養ふけくおまひん

おつ虫

あふふふふふふふふふふふふふふふふふ

毎中虫

うふふふふふふふふふふふふふふふふ

回家は虫球ニク

小菟咲山田村の養虫のわふふふふふふ

夕のなれ虫とらふふふ

うらふふふふふふふふふふふふふふふ

回家秋夕

あふふふふふふふふふふふふふふふ

吹ころたふふふふふふふふふふふ

系極太政大臣仲能言ふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふ

路こわくろもねの南東のひふふふ

あふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふ

あふふ

あふふふふふふふふふふふ

菊

いふ秋は我があひふふふふ

秋ふふふふふふふふふふ

月系菊

あふふふふふふふふふふ

あゝ物へあがりける道より

あゝさびしき長はるれりも晴しけり此秋は夕暮  
暖酒は経ずればとすられ端より下草ありん  
あゝりけりさびしき夕暮の志はわづれ  
まゝらりてさびしき夕暮の志はわづれ

題

いほりからお葉の巻はしりふし時海よりかえり  
お葉末編りてりてり

いほりからお葉の巻はしりふし時海よりかえり  
お葉末編りてりてり  
イトカ  
いほりからお葉の巻はしりふし時海よりかえり  
山宗紅葉

あゝのさびしき長はるれりも晴しけり此秋は夕暮  
暖酒は経ずればとすられ端より下草ありん  
あゝりけりさびしき夕暮の志はわづれ  
まゝらりてさびしき夕暮の志はわづれ

いほりからお葉の巻はしりふし時海よりかえり  
お葉末編りてりてり

いほりからお葉の巻はしりふし時海よりかえり  
お葉末編りてりてり

いほりからお葉の巻はしりふし時海よりかえり  
お葉末編りてりてり

いほりからお葉の巻はしりふし時海よりかえり  
お葉末編りてりてり

幕中紅葉

綿はらわぬ此情をわづらひてり幕の中は  
賑うりける家も若のお葉面白うりてり  
思ふにやよりのあゝ秋のさびしき夕暮の志はわづれ

寄 河内 色 不 定

我がやう河内は海に近くわが色は秋の袖に似て  
あつても海に似てはるかに色は人のあつても色は  
のりかたは

とくくはたのみどり色は秋のくわが色は秋のくわが  
色は秋のくわが色は秋のくわが

大井川井やよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが  
秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが

昔果が秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが  
秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが

冬

長樂寺のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが  
くわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが

秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが  
くわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが

ねよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
十月くわが色は秋のくわが色は秋のくわが色は秋のくわが

蒼の野にけりしきくかたよみなり

まららしし藤うすたて蒼あろろあろろろろろろろろろろ

### 山家為兼

ろりろりろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

本葉らなし月よらろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

### 暁為兼

時あしねとめれろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

### 木と為兼

三田娘傳し初のちろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

### 為兼

あしけろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

### 月前為兼

山下風乃月よ本葉なほ吹なれろろろろろろろろろろろろろ

### 龍と為兼

本葉よみねのりみらもろろろろろろろろろろろろろろろろ

### 山家時ぬ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

### 田中時ぬ

よろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

### 時ぬのろろろろろろ

あまの玉飾りろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

### 為兼前

あまの玉飾りろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

山家祐基ろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろろ

くさくさくさくさくさくさく  
くさくさくさくさくさくさくさく  
野の海に花のうさぎのうさぎのうさぎ  
よきよきよきよきよきよき

花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

木道をいそ

花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

花のうさぎのうさぎ

花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

山家冬月

花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ  
花のうさぎのうさぎのうさぎのうさぎ

こころをくちくちとわたり新りたるおのれを  
氷〜〜のそよ風はついで月を走らすの〜  
とけりうらよの冬月

おとちの庭に雪を踏みわけて月をみれば  
庭と冬月とわたりて

よもとみしをぬくまらぬげに木をこきり  
雁馬狩

あしをくちくちとわたりて  
宮中 雁馬狩

うらやまのこころをくちくちとわたりて  
あつちのこころをくちくちとわたりて

長袖のこころ

月がかりのあつちのこころをくちくちとわたりて

庭の雪月

あつちのこころのこころをくちくちとわたりて

宮の初霊山〜〜とわたりて

〜〜の初霊山〜〜とわたりて

枯葉の雪月

あつちのこころのこころをくちくちとわたりて

雪月

あつちのこころのこころをくちくちとわたりて

〜〜のこころのこころをくちくちとわたりて

宮道

あつちのこころのこころをくちくちとわたりて

あはれはさるる人むかしはなほしるるにせめて  
まはらばらるる人のついでにさるるのつら  
しつらつらつらつら

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
名期待人しつらつらつら

細くはなはたわがのさるるさるるさるるさるる  
さるるさるるさるるさるるさるるさるる

かたはさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
みくさるるさるるさるるさるるさるるさるる

人しつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
さるるさるるさるるさるるさるるさるる

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
さるるさるるさるるさるるさるるさるる

雪埋行しつらつらつら

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
雪埋行しつらつらつらつらつらつらつら  
由裏ましつらつらつらつらつらつらつら

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
社及名

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
さるるさるるさるるさるるさるるさるる

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
さるるさるるさるるさるるさるるさるる

さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる  
さるるさるるさるるさるるさるるさるる

卯のつらつらとてはなれぬ山はけしきぬの山はけしきぬ  
おりのつらつらとてはなれぬ山はけしきぬの山はけしきぬ  
とくもきりてれぬ山はけしきぬの山はけしきぬ

舟中一景

舟中一景  
舟中一景

深山暮

深山暮  
深山暮

深山暮  
深山暮

深山暮  
深山暮

月前屋電

月前屋電  
月前屋電

千鳥

千鳥  
千鳥

題

題  
題

氷留山水

氷留山水  
氷留山水

湖上水

湖上水  
湖上水

氷笑







のりみり〜〜〜

後朝

とゆ〜〜〜

後朝

この〜〜〜

後朝

〜〜〜

後朝

〜〜〜

後朝

〜〜〜

後朝

〜〜〜

〜〜〜

恨

〜〜〜

恨

〜〜〜

恨

〜〜〜

恨

〜〜〜

けりしりし一とされ梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

つれりある人よみそくも梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

くうねはあけく梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

つれりあけく梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

つれりあけく梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

寄 荊 萱 也

一方よわらうりあけく我意を梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

つれりあけく梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

つれりあけく梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

つれりあけく梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

つれりあけく梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

我神のほくふあけく梅はあけく神をみよけりぬ  
寄 也 意

賀茂 四方 町のしほはなほ

ひくまうしそと山に花を

鏡 今もまうしそと山に花を

商人よあはれはなほ

あひなほ市の中はなほ

海舟集

波のくまうしそと山に花を

九月よりあひなほ

いそみくろみ

七月のあひなほ

はなれの比賀集

草

しつろみあはれはなほ

同様に神よあはれ

よみくろみ

天々よりあはれはなほ

月

月待しつひあはれはなほ

あはれはなほ

あはれはなほ

あはれはなほ

あはれはなほ

あはれはなほ





Handwritten notes in the top left corner of the left page.

Main handwritten text on the left page, starting with 'わらわら...'. The text is written in a cursive style and covers most of the page.

Main handwritten text on the right page, starting with '申し...'. The text is written in a cursive style and covers most of the page.







